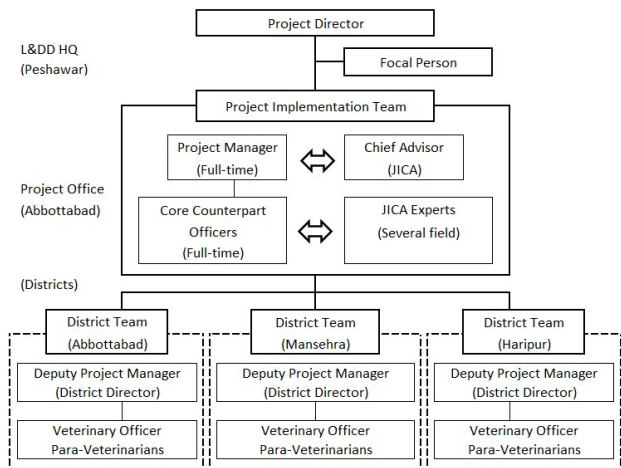


実施体制

プロジェクトの責任機関の畜産局本部はパシャワールにあり、プロジェクトオフィスはアボダバードに設置し、そこに専任のプロジェクト・マネージャーと5名の技術者職員が配置されています。



方針

適正な日本人専門家の配置

畜産技術の指導は、酪農技術開発専門家が中心となり飼料開発／飼養管理、繁殖／家畜衛生／人工授精、牛乳マーケティングの専門家の経験を最大限活用します。普及指導は、経験豊富な普及専門家が中心となり、研修計画補佐とジェンダー主流化補佐と連携し活動を展開していきます。

効率的・効果的なプロジェクトの遂行

プロジェクト2年度から1回／年、畜産局、NGO その他の関係各機関、大学を招いてプラットフォーム会議を開催します。本プロジェクトの主な成果の適正技術開発、普及の事例、牛乳・乳製品のマーケティング事例を共有し、意見交換を行い、将来の普及の仕組みを検討していきます。

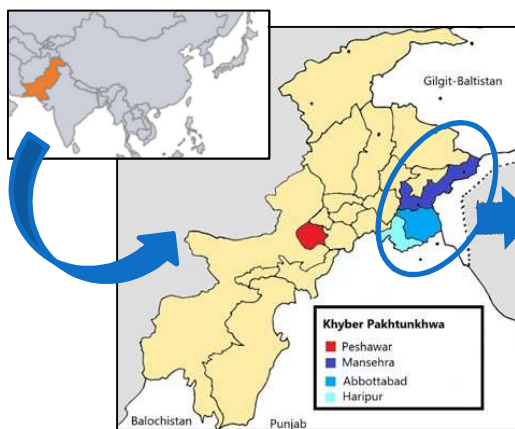
コミュニケーションの確立

日本人専門家は治安上の理由から意思決定の中心であるパシャワール訪問は制限されています。よってフォーカルパーソンが定期的にプロジェクトサイトを訪問し、局長と情報を共有します。また、3カ月に1度の技術会議で進捗状況を共有し、合同調整委員会（JCC）を通してプロジェクトの方針・内容・活動計画を決定していきます。

対象地域

パキスタンイスラム共和国（パキスタン）は、東をインドに、西をアフガニスタンとイランに接しています。パキスタンは1947年に建国された、4つの州と多様な民族からなる連邦国家です。

本プロジェクトの対象地域であるハイバル・パフトゥンハー州（以下、KP州）はパキスタンの北西部にあり、首都イスラマバードと接しています。総面積は、約7万5千km²であり、ほとんどが山岳または丘陵地域で平地は少ない地域です。家畜の飼養頭数は、一般牛597万頭、水牛193万頭、山羊960万頭、羊336万頭と多く、同州全世帯の7割以上が牛や水牛などの大型家畜を飼養し、年間600万トンの生乳を生産しています。



KP州の3県（ハザラ地域）が対象です。
 ◇アボダバット県
 ◇マンセラ県
 ◇ハリプール県

お問合せ先

プロジェクト事務所

住所：Civil Veterinary Hospital, Jaharian Road/Murre Road, Abbottabad, Pakistan

電話：(+92)922-390910

JICA パキスタン事務所

住所：4th Floor, Serena Office Complex, Plot No. 17, Ramna 5, Khayaban-e-Suhrawardy, G-5/1, Islamabad, Pakistan

電話：(+92-51) 9244500~07

Mail: pt_oso_rep@jica.go.jp

JICA 農村開発部

住所：東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル

電話：03-5226-3159

株式会社熱帯畜産コンサルタント

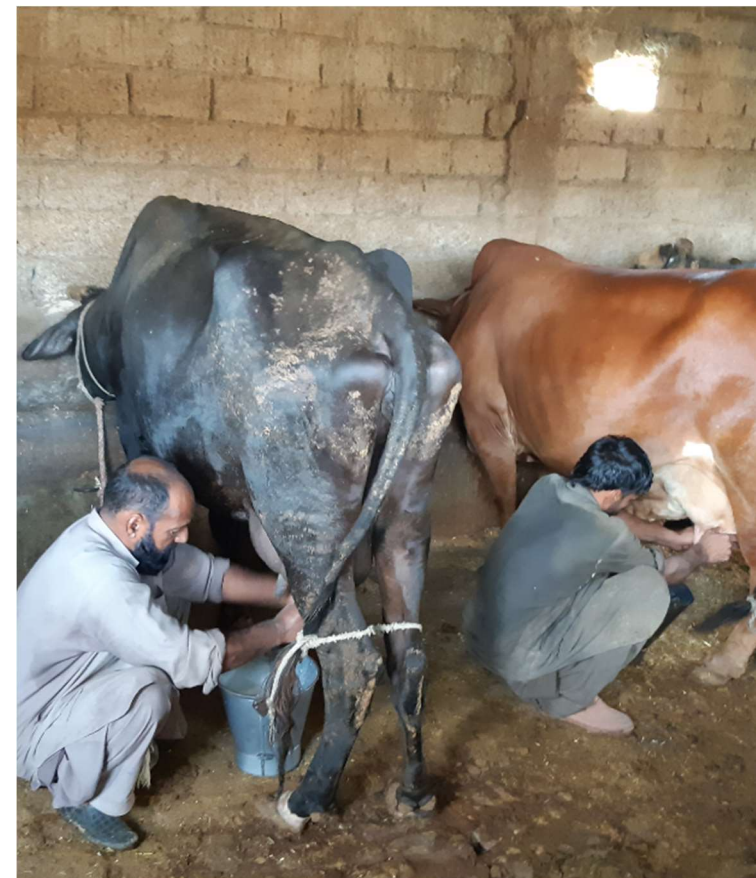
住所：神奈川県藤沢市西富 2-12-15

電話：0466-27-7830

Email: tlc-inc@tl-consultant.jp



パキスタンイスラム共和国
 ハイバル・パフトゥンハー州畜産局



独立行政法人国際協力機構（JICA）

パキスタン国
 ハイバル・パフトゥンハー州
 畜産開発を通じた生計向上プロジェクト

The Project for Livelihood Improvement through
 Livestock Development in Khyber Pakhtunkhwa

ハイバル・パフトウンハー州 畜産開発を通じた生計向上プロジェクト

パキスタンの畜産分野は、農業総生産の約6割、総GDPの約12%を占める主要なセクターです。家畜頭数も世界有数で、牛が世界第7位(約4,280万頭)、水牛が第2位(約3,660万頭)、山羊が第4位(約7,000万頭)、羊が第10位(約2,900万頭)と多いほか、乳生産量も世界第4位(約3,965万トン)です。

本プロジェクトの対象地域であるハイバル・パフトウンハー州(以下、KP州)は、約790万頭の牛及び水牛を有し、その数は日本の総保有牛総数である約400万頭の約2倍に相当します。

KP州は8割以上の人口が農業・畜産で生計を立て、特に生乳や肉類は主要な食糧・収入源であることから畜産の重要性が高いです。

畜産農家の大半は、2-3頭の牛や水牛を飼育する小規模零細です。畜産は農民や女性を含む農村労働者の現金収入源、資産、貴重な動物性たんぱく質の供給源となっています。しかし、KP州の生乳の平均生産は、家畜の栄養不良、劣悪な飼養環境、不十分な繁殖管理などが原因で低い現況です。適正技術を選定し、小規模農家を対象とした普及基盤を整備し、生産性改善を通して生計向上の道を示す畜産開発は、経済的・社会的な格差の是正、地域の安定化と発展に大きく貢献すると期待されています。



本事業の受益者

プロジェクトサイト内において5頭以下の家畜を飼育する小規模農家(小作、非農家を含む)

プロジェクト期間

4年間(2020年12月~2025年5月)

実施機関

ハイバル・パフトウンハー州畜産局



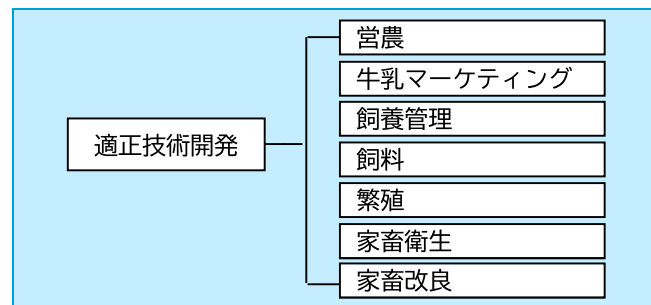
プロジェクト目標

本プロジェクトは「対象地域の小規模畜産家の生乳・乳製品生産増加を支えるサービスが改善する」ことを目標に掲げています。この目標を達成するために、以下の3つの成果の達成を掲げて活動を行っています。

プロジェクトの成果

成果1 | 酪農適正技術の開発と実証

パキスタン国KP州の現状にあった酪農適正技術(安価、高い効果、簡単)を、パイロット農家での活動を通じて開発します。農家が入手可能な資機材を用い、家畜のストレスを軽減し、どのようにして牛乳生産を増やし収入を向上することができるのか、以下の7分野毎に実証していきます。またパキスタンでは伝統的に女性が家畜飼育の大切な担い手になっています。男性女性それぞれの役割に配慮した技術やマネジメント手法を開発します。



成果2 | 適正技術の普及

成果1で開発・実証された適正技術が州や県の官民の技術者を通して、パイロット県内の小規模農家に効率的・効果的に普及される仕組み作りを目指します。



酪農セクター開発の基盤づくり

適正技術の
開発と普及

人材育成
(能力とやる気)

牛乳マーケティング
の実証

成果3 | 牛乳マーケティングの改善

対象地域で生産される生乳の多くは自家消費され、残る少量が狭いコミュニティの中で販売されています。また少数の農家グループではあるものの、県都近郊では生乳を集め、都市部の消費者や牛乳店に販売を行っています。本プロジェクトでは、こうした事例を発掘し、パイロット事業を試し、その成果をまとめ政策提案します。



パキスタン国シンド州持続的畜産開発プロジェクトの成果の活用と相乗効果

2014~21年に、パキスタン南東部のシンド州で持続的畜産開発プロジェクトが実施されました。シンド州とKP州は、自然状況や社会構造など異なる点が多いのですが、応用できる技術も多くあります。また、本プロジェクトに関わる技術者がシンド州プロジェクトで経験を積んだ技術者と交流していくことで、パキスタン人同士で学びあい、相乗効果を生み出していくことを期待しています。

